

# 北部タイ山岳少数民族の子どもたち ～国や民族の違いを超えた心の交流～

タイ北部には、山岳民族と言われる少数民族が暮らしています。主な民族は、アカ族、カレン族、モン族、ヤオ族、ラフ族、リス族。山岳民族はタイだけでなく、ミャンマー・ラオス・中国雲南省などの山岳地帯にも住んでいます。彼らは国境が存在する前から山岳地帯を移動しながら生活していたため、複数の国に民族が分散しているのです。過去200年の間に、大半が争いや社会的な抑圧から逃れ、肥沃な土地を求めタイに移り住みました。そして、独自の文化や言語を持つ、いくつもの民族がその伝統を残しながら、それぞれに村をつくりました。

## 北部タイ山岳少数民族

熊本YMCAは、タイのチェンライYMCAと協力し、18年に渡り、タイ北部に暮らす山岳少数民族の子どもたちの支援に取り組んでいます。子どもたちは、熊本YMCAが日本の里親の協力を受けて運営する「若竹寮」で共同生活を送りながら、街の学校に通っています。

若竹寮の子どもたちや、彼らが生まれ育った山岳民族の村の人々とふれあい、交流を深める「タイ・ユースワークキャンプ」「タイ・スタディツアー」が8月末に開催され、参加者11名とスタッフ2名がタイを訪れました。(2面に関連記事)今回は、タイ山岳少数民族の抱える課題と、現地の人々との交流に焦点を当てます。



アカ族の村の教会で行われた交流会

近年、山岳地帯にも電気や水道が整備され、ようやく村の近くにも学校が建てられました。しかしながら、学校の数や村の学校で行われる教育内容が必ずしも十分ではないために、親元を離れて寮生活を送る子どもは今でも多くいます。

かつて、山岳民族は焼畑農業と麻薬の原料であるケシの栽培によって、生計を立てていました。ところが、タイ政府は森林の伐採や焼畑、ケシ栽培を禁止。現在は、タイの王室や国際援助団体の作物代替プロジェクト支援によって、コーヒ、野菜、果物、花などを栽培しています。それでも、重労働に見合わない不安定な収入から、山を離れて出稼ぎに出る人も増えています。依然として国籍を持たない人も存在し、タイ語の不自由さから、人身売買や売春などの被害に遭うこともあります。

## 山岳少数民族の抱える課題

CAが活動している現場を訪れ、タイの抱える課題を肌で感じ、課題解決のためにできることを自分自身で考えます。ワークキャンプでは、同世代の若者が言葉や文化の壁を超えて、ボランティアワーク(共同作業)に取り組むことで、実際に現地の人々や地域に貢献し、親密な関係を築くことができます。今回は、寮の生活に欠かせないトイレ兼シャワーを移設する作業を行いました。また、長年にわたり里親として山岳民族の子どもたちを支えてきたスタディツアーメンバリの一人は、里子やかつての里子と対面し、寮生らが祝う中、若竹寮で誕生日を迎えられました。(詳細は2面)



参加者はタイのYMCAが活動している現場を訪れ、タイの抱える課題を肌で感じ、課題解決のためにできることを自分自身で考えます。ワークキャンプでは、同世代の若者が言葉や文化の壁を超えて、ボランティアワーク(共同作業)に取り組むことで、実際に現地の人々や地域に貢献し、親密な関係を築くことができます。今回は、寮の生活に欠かせないトイレ兼シャワーを移設する作業を行いました。また、長年にわたり里親として山岳民族の子どもたちを支えてきたスタディツアーメンバリの一人は、里子やかつての里子と対面し、寮生らが祝う中、若竹寮で誕生日を迎えられました。(詳細は2面)

熊本YMCAはアジアの一員として、世界とともに手を携え歩む活動に取り組んでいます。

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION  
**YMCA**  
KUMAMOTO  
**NEWS**  
October 2012  
vol.485  
**10**



大盛況！サザンフェスタ(みなみYMCA祭)

- C O N T E N T S**
- ① 北部タイ山岳少数民族の子どもたち～国や民族の違いを超えた心の交流～
  - ② タイ訪問で感じたこと(タイ ユースワークキャンプ・スタディツアー) 東ティモールサッカー指導者派遣/YMCA学院シンガポール研修旅行/ハイデルベルク市青少年交流
  - ③ 九州北部豪雨災害被災児招待あそぼうキャンプ YMCA学院日本語科留学生スピーチ大会 アガペNo.79「子どもの健やかな成長のために」REPORT 児童養護施設招待デイキャンプ/会員スポーツ大会
  - ④ Life 第51回 テーマ「登校拒否・不登校」 フリースクール地球子屋 加藤千尋さん②

## わたしと聖句

詩篇90篇12節

生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることができますように。

### 死を覚える生き方

今年は、集中豪雨災害により、熊本を中心として、多くの方が亡くなられる、という、本当に痛ましい出来事が起こりました。被災地の一日も早い復旧を祈らざるを得ませんが、このよう

な出来事に遭遇すると、私たちが当然のように思うこの命が、実は意外にもろいことを改めて思わされます。

中世のヨーロッパでベストの大流行で、多くの人が死んだ時に、修道院などにより「メント・モリ(汝の死を覚えよ)」という言葉がよく使われました。日本はことさら「死」というものを縁起が悪い、とフタをしてきたように思います。しかし聖書が私たちに教える生き方の基本は「死を覚える生き方」です。私は牧師ですが、これはどのような宗教、思想であっても同じです。「人は死ぬ者だ」ということを覚える時、「では今をどう生きるべきか」と

いう、今の生き方につながっていきます。昨今メディアで「命の大切さ」という言葉がよく聞かれます。誰もこの言葉に異論を唱える人はいないでしょう。しかし「死を忘れてしまった」命の価値は単なる言葉遊びに過ぎません。私たちは「死」を覚える時に、初めて人の命の価値も理解できるからです。死など忘れてしまったかのような生き方。そのような現代の生き方に、聖書は警鐘を鳴らしています。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教会  
希望ヶ丘キリスト教会  
本堀 秀一

## 若竹寮の支援と交流



若竹寮を運営する寮長  
ヨハン・チエルマーさん

一昨年、若竹寮は施設の老朽化や衛生環境などの事情から新しい場所へ移転しました。敷地は以前の約3倍で、スポーツをするにも十分な広さがあります。以前よりも通学は不便になりましたが、大変静かな環境の中で、寮の子どもたちはのびのびと過ごしています。

2008年10月から1年間、熊本YMCA学院日本語科に留学したフランが、今はスタッフとして、先輩として、寮を手伝い、寮生たちの面倒をよくみてくれています。

私自身、ドイツの里親の支援で寮生活をしながら学校に通いました。農業研修で1年間、熊本県産山村に滞在したのはもう24年も前のことです。

卒業後、希望する職業に就ける学生は決して多くはありません。学校に通い卒業しても、村には戻らず、仕事を求めてバンコクやチェンマイといった都会に出て行ってしまいう子どもがほとんどです。結果的に、村はお年寄りばかりになってしまいます。このような新たな課題にも、私たちは向き合っていかなければなりません。

# 出会いと感動の旅 タイ訪問で感じたこと



中村俊史さん  
YMCA学院  
建築科2年

笑いつつ時間は、国や言葉の違いを超えてわかり合えた時間でした。このつながりは小さなものかもしれないけれど、ずっと大事にしていきたいです。



合志佳菜子さん  
北九州市立大学  
2年

若竹寮や学校では、様々な民族の子どもが生まれて育った文化を尊重しながら生活していました。日本の教育現場や日常生活でも大切にしたいと思います。



首藤真理さん  
北九州市立大学  
2年

忘れられないのは、子どもたちの目の輝きです。スリートチルドレンも若竹寮の子どもたちもみんな笑顔で、こちらも自然と笑顔になっていました。



高本壮亮さん  
YMCA学院  
建築科2年

若竹寮のみんなは、穏やかで、親切で、人懐っこい。文化も言葉も違うタイでの出会いは貴重な体験です。将来は私も里親制度のサポーターになりたいです。



竹永翔太さん  
YMCA学院  
建築科2年

人生初の海外旅行。普通では経験できないことを経験できました。タイの人々に会って、私も今まで以上に毎日を懸命に生きていかなくては感じました。



田中佳世さん  
尚綱短大1年

物を大切に、誰にでも笑顔。そんなタイの人々とのふれあいで、穏やかな気持ちになりました。スポーツや歌を通じたコミュニケーションができました。



原田望美さん  
熊本大学1年

タイの文化や建築に興味があり参加。山岳民族の生活状況を知って驚きました。子どもたちの身近にも麻薬があると聞いて、教育の大切さを実感しました。



岩下公隆さん  
YMCA学院  
建築科1年

衝撃的だったのはスラムの生活。建物は開放しのコンクリートで、雨風をよつと凌げる状態でした。自分の目で確かめ、考えることが大切だと感じました。

25歳になった彼女は、美しい女性に成長していた。勉強家の彼女は大学では日本語を専攻したが、今は看護助手として働いているという。連絡を受け、仕事の後、バイクを飛ばして来てくれたのだ。本当にうれしかった。

たした翌日、寮には彼女からプレゼントが届いていた。昨夜、「最高の誕生日だわ」と口にしたのを聞いて届けてくれたらしい。英文の手紙に、モン族の刺繍を施した麻のスカートとせつげんで作られた花が添えられていた。山岳民族は伝統を重んじ、故郷で民族衣装を着て結婚式を挙げるという。勝手ながら彼女からの招待状を夢に見ながら、再度の訪問を期待している。

## スタディツアーで成長した里子と対面



もう一度お会いできてもううれしかった。私はひと時もあなたのことを忘れたことはありません。お誕生日おめでとうございませう。昨晩刺繍をしたスカートを贈ります。それから、タイで母の日に贈るジャスミンの花をプレゼントします。またお会いできると信じています。次にお会いする時は、家に招待してタイの料理をごちそうします。イー(ジャルヌ・ワンワナパット)

# 海外派遣プログラムで得た体験

## 東ティモール・サッカー指導

8月19日(日)〜25日(土)、アジア太平洋YMCA同盟・日本YMCA同盟のサッカープログラム指導者派遣として、東ティモールYMCAを訪問しました。

東ティモールは2002年に独立。グラウンドにはゴミや石が散らばり、子どもたちはスニーカーのままサッカーをするなど、決して恵まれた環境であるとは言えません。そのような中でも、東ティモールで一番人気のス

ポーツとあって、心からサッカーを楽しむ様子や向上心には見習うべき点が多くありました。指導では、言葉の部分で大変苦労しましたが、日本のYMCAの指導方針や指導法を伝えることができました。職員 徳永祥太



## YMCA学院シンガポール研修旅行

8月30日(木)〜9月4日(火)、経営ビジネス科2年22名と医療事務管理学科2年42名が研修でシンガポールを訪問。初日にウォームアップパーク(慰霊塔)を訪れ、平和について学びを深めました。シンガポール・ポリテクニク校(技術訓練校)との交流では、コミュニケーションゲームが行われ、楽しい時間を共有しました。また、学科ごとの研修では、医療事務管理学科は現地の医療に関する講話を聴き、経営ビジネ

ス科は旅行代理店の現地社員から経営論について話をうかがいました。シンガポールの歴史、文化、宗教などを学び、充実した海外研修となりました。YMCA学院 宮本昌宣



## ハイデルベルク市青少年交流

私は、7月31日(火)〜8月9日(木)、熊本市・ハイデルベルク市青少年交流事業でドイツを訪問しました。先生からの勧めで応募し、作文と面接による選考で、100名以上が応募する中、団員として選ばれました。作文や面接、ドイツ語のレッスンでは、YMCAの先生やボランティアの方に丁寧にご指導いただきました。

滞在中は市長を表敬訪問し、第二次世界大戦の資料が展示された博物館な



山岡千恵

# 九州北部豪雨災害の被災児を招待 あそぼうキャンプ開催

「阿蘇」の地で、次代を担う子どもたちが未来を「望む」「あそぼうキャンプ」が9月15日(土)から2泊3日で開催されました。7月の九州北部豪雨で被災した阿蘇市内牧小学校、熊本市龍田小学校の子どもたち、東日本大震災の影響で熊本県に避難している子どもたちを阿蘇YMCAに招き、交流と絆を深める時を設けました。子どもたちは、自然散策や乗馬体験、キャンプファイヤーなどを元氣いっぱい



に楽しみ、大自然を体感。「エサを食べる馬がかわいかった」「初めて自分で拾った栗がおいしかった」

た」と満足の笑顔。最終日は全員で野外料理にも挑戦し、にぎやかな昼食になりました。

今回は、東日本大震災後に熊本に移住した保護者が、「被災支援のリレー」として参加。「熊本に来て多くの方から支援をいただき、少しでも恩返しをしたくてボランティアで参加しました」。熊本市で被災した保護者は、「避難生活が長く中、久しぶりに屋外で気分転換し、子どもの笑顔を見ることができました。多くの人に支えられ、人とのつながりの大切さを感じました。子どもたちにもボランティア

精神を持った人に育ってほしいと願っています」と話しました。  
ニキハーティ  
ホスピタル理事  
長の仁木啓介さん  
も同行し、専門的な立場からアドバイスもありました。

# 留学生が思いを語るスピーチ大会

9月1日(土)、YMCA学院日本語科の留学生によるスピーチ大会が開催されました。37名が参加した予選の後、初・中・上級から各3名が代表に選ばれ、日本語でスピーチ。日本に来て感じたこと、伝えたいことなど、各自が設定したテーマのもとで展開される弁論に、会場の人々は熱心に聞き入っていました。内容は生まれ育った町の紹介、自国と熊本との比較、熊本で得た友人のこと、将来の夢など多岐にわたりました。



3位のラオスのタミックさん(中級)は、日本でのアルバイト中に失敗した体験をもとに、自らが

成長するために学んだ考え方、先延ばしせずに取り組むことの大切さを強調。2位の傅学林さん(初級)は、日本と中国の現在の生活環境を比較し、将来の目標を発表しました。  
1位に選ばれた韓国の黄智恵さん(上級)のテーマは「それが運命なら」。韓国では目的を持たずに過ごしていましたが、YMCA学院に入学して学びに対する意欲が湧き、日本の大学に入って日本語教師になる夢を持つようになり、「これぞ運命」とスピーチ。「これが運命であるなら、困難に負けず頑張りたい」と力強く語りました。

審査員の一人  
フィランソロピー協会議長・熊本の山田泰司さんより、「企業人として胸に響く言葉もあり、大変勉強になりました」と総評がありました。

## アガへ No.79 総主事 堤 弘雄

### 子どもの健やかな成長のために

夏の初めに自宅の縁側でスイカを食べたのですが、その時に落ちた種が偶然朝顔のプランターの中に落ちて発芽しました。試しに毎日水を与えて育てることにしました。すると数日後には黄色い花が咲き、後に丸いスイカができたので驚きました。さて、このスイカの種は発芽するのに必要な条件があります。それは、柔らかな土の上に落ちることです。そして、毎日無事に育ってくれよう祈りながら水をやり続けることです。  
子どもは母親の体内に宿って、やがて生まれてきます。これは「種」が健やかに育つ条件の整った土に落ちると似ています。与えられた小さないのちへの喜び、歓迎する心、愛情、優しさという「栄養」をもって種を発芽させることは親の大切な役割だと思えます。  
そして、その芽は、愛すること、認めること、褒めることによって内に秘められた可能性という芽をぐんぐん伸ばして花を咲かせ果実を豊かに実らせることが可能な存在です。

空が曇っていると、海の色もどんよりした色になります。空が晴れていると、海の色も青く輝きます。これは、親や社会が空で、子どもたちが海という関係に例えることができます。親が輝き希望を持って生きていけば、子どもは輝いてくるのです。経済状況が厳しい中、親が夢を持ち、子どもに明るい未来を語りづら世の中であることは確かです。しかし、親の心が曇ったままでは、我が子のいのちは輝きません。人と関わることの素晴らしさ、自然と交わることの素晴らしさ、いのちが与えられていることに感謝するなど、「いろいろ大変なこともあるけど生きることは楽しく素晴らしい!」というプラスのメッセージを「ことば」や「体験」を通して伝えることが、子どもが人生を肯定的に生きていくための、親の大切な役割だと思えます。  
やがて成長してくるとツルが長く伸びて根から遠く離れていきます。しかし、親は子どもが種であった時のこと、小さく発芽した時の思いを忘れずに「どんな時も私はあなたを愛している。そして、かけがえのない存在である」という思いの原点と眼差しを何時も忘れないで関わり続けてほしいと思います。

# REPORT

## 児童養護施設の子どもたちと 企業人のデイキャンプ

■日時/9月2日(日)11時~15時  
■場所/リフレスおおむた  
家庭の事情で親元を離れて生活している子どもたちとフィランソロピー協会の企業人が交流を図りました。今年度は水俣市の児童養護施設「光明園」の子どもたち14名、協会から16名が参加。協会の会員企業であるJR九州の協力で、子どもたちは九州新幹線に乗り込んで大牟田市へ向かい、「すくすく速い!」と大興奮。パーベキューやピザ作り、クラフトなどの野外体験を通して打ち解け、思い出に残る一日を過ごしました。



## 交流を深めるボウリング大会

■日時/9月22日(祝・土)9時~12時  
■場所/マスターズボウル熊本  
熊本YMCAの会員、学生、職員ら100名以上が集い、第20回会員スポーツ大会が開かれました。チーム対抗でボウリングのスコアを競いました。



# Life

第51回

「いのち」「生活」「いきがい」をテーマにしたメッセージ。



NPO法人フリースクール地球子屋(てらこや) 代表

加藤 千尋さん ②

## 家庭が安心できる場所だと伝え、子どもの世界を理解する努力を

ご家族には、「子どもは不登校になった理由を説明する言葉を持っていない」ことを伝えたいですね。学校の先生も親も、「なぜ学校に行けないのか」と追及してしまいがち。しかし、問い詰めることは追い詰めることにもなりかねないのです。すると学校にも、家庭にも居場所がなくなってしまいます。様々な要因で学校に行けなくなっていることを、子ども自身が論理的に順序立ててきちんと因果関係がわかるように大人に伝えることは難しいのです。学校に行かないことは、傷つかないように自分自身を守ることであります。

ですから、学校に行けないと子どもが言ったら「行きたくなかったら、行けばいいよ」とまず言ってあげること。人間関係に不安になっていますから返事が返って来なくても普段どおり挨拶するなど声をかけ続けてあげると安心します。学校に行けない時間も当人にとって必要な時間だと認めてあげてほしいのです。一人ひとりみんな違う人生があるのだと私たちは改めて子どもたちから学ぶことができるのです。



ゲームをして遊ぶ様子

## YMCA祭り・バザー

下記の日程で地域YMCAの祭りが開催されます。ぜひお近くのYMCAまでお越しください。益金は国際協力青少年育成年末募金や地域活動のために役立てられます。詳しくは、各YMCAまでお問合せください。

上通YMCAチャリティ市場	10月21日(日)11:00~15:00
むさしYMCAチャリティバザー	10月21日(日)10:00~15:00
水前寺幼稚園バザー	11月3日(土)10:00~13:30
中央YMCA前進祭	11月11日(日)10:30~15:00
東部YMCA祭	11月18日(日)11:00~15:00

## YMCAフィランソロピー協会 第17回チャリティプチ駅伝大会

病気や家庭の事情などにより困難な状況にある子どもたちにクリスマスプレゼントを贈るため、チャリティプチ駅伝大会が開催されます。事前に申告したタイムとの差を競うこの大会では、男女や年齢に関係なく、走りに自信のある人もマイペースで走りたい人も楽しく参加できます。また、チームならではのユニークなタスキや趣向を凝らしたコスチュームも見物です。

日時:2012年11月3日(祝・土)9:30~12:00 9:00受付開始  
会場:菊陽杉並木公園“さんさん”(菊池郡菊陽町大字原水5326)  
※雨天時は11月23日(祝・金)別会場にて開催  
参加費:1チーム(5人)10,000円(おたのしみ抽選券付)

お問合せ/熊本YMCA ICR TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877  
E-mail icr@kumamoto-ymca.org

## TOPICS 地域YMCAにまつわる人・モノ・場所などを順番にご紹介します。

### 社会人に必要とされる学び 学院



9月、熊本県内の専門学校が参加する体育大会が行われ、女子バスケットボールと男子ソフトボールが2連覇を果たしました。体を動かすことの楽しさや意義を伝える仕事に就くことを目指す生涯スポーツ科の学生が中心となり、他の学科の学生とともに様々な競技でがんばりました。座学や実習で学ぶことと同様に、スポーツやボランティア活動などの経験はコミュニケーション能力の向上につながります。YMCAには社会人となるうえで必要とされることを学ぶ土壌がたくさんあります。

YMCA学院 神保勝己

### ぶどうの木幼稚園 みなみ



ぶどうの木幼稚園は、子どもたちが生活力を身に付け自分のことは自分で考えられるようになることを目標に、一人ひとりのすばらしい可能性を大切に育てています。1年を通してみなみYMCAの施設をフル活用し、専門のスタッフも加わりながら、体操・水泳・英語のプログラムを実施。夏は大自然の中での親子キャンプ、冬にはスケートもあります。最長朝7時半から夕方7時までの保育時間も魅力です。10月1日より、2013年度新入園児(2歳~5歳児)の願書を受け付けています。

みなみYMCA 厚地洋子

### 留学生が日本文化体験 東部



9月8日(土)、東部YMCAの日本語科で来日半年の留学生12名(中国・台湾・ネパール)が、着物を着てお茶を楽しみました。初めての着物に「苦しい」と言いながらも、とても楽しそうに写真を撮り合ったり、慣れない手つきでお茶をたてたりする姿がとても微笑ましかったです。その後の茶話会では、手話ダンスクラブの方たちと一緒に踊って、大はしゃぎ。忘れられない1日となりました。着付け・お茶・手話ダンスのボランティアの皆さんに心から感謝いたします。

東部YMCA 山本昌子

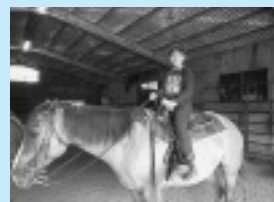
## Kumamoto YMCA Network

中央YMCA	☎096-353-6391	ながみねファミリー-YMCA	☎096-385-0676
YMCA学院	☎096-353-6393	むさしYMCA	☎096-248-6334
YMCA学院高等学校	☎096-353-6391	阿蘇YMCA	☎0967-35-0124
本部事務局・ICR	☎096-353-6397	赤水保育園	☎0967-35-0024
みなみYMCA	☎096-378-9370	尾ヶ石保育園	☎0967-32-0213
上通YMCA	☎096-352-2344	永草保育園	☎0967-32-0810
東部YMCA	☎096-382-6661	黒川保育園	☎0967-34-0402
水前寺幼稚園	☎096-362-4141	リフレスおおむた	☎0944-58-7777



## 思いやり 誠実さ 責任感 尊敬心 キャラクター・ディベロップメント推進中

9月15日(土)~17日(祝・月)、あそぼうキャンプを開催し、九州北部豪雨で被災した阿蘇市・熊本市の小学生に、東日本大震災のため熊本に避難している小学生を加えた40名が参加しました。キャンプでは、他者への思いやりや気づき、優しい心を育むことの大切さを体験できました。子どもたちは、自分の夢を「あそぼう宣言」にして発表。「医者になって世界の人々の役に立ちたい」「保育士になりたい」など、阿蘇から夢が広がりました。(阿蘇 櫻間博継)



【基本聖句】喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマの信徒への手紙12章15節)

熊本YMCAの使命

共に生きる社会  
ウェルネス活動

地球環境の保全  
ボランティア活動

生涯学習の推進  
平和な世界

■ホームページ [www.kumamoto-ymca.or.jp](http://www.kumamoto-ymca.or.jp)

■メールマガジン登録  
[www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi](http://www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi)

